

令和4年度 学力スタンダード指導計画・報告書

教科：(数学)科目：(数学Ⅱ) 対象：(第2学年1組～7組)

科目担当者：(1組:武田^印) (2組:武田^印) (3組:武田^印) (4組:木村^印) (5組:木村^印) (6組:堀井^印) (7組:堀井^印)

| | |
|----------------|--|
| 教科・科目の 指導目標 | 基礎学力を定着させ、応用問題、発展問題にも対応できるような学力をつけさせる。 |
|----------------|--|

| | 高校入試等の分析結果・前年度の学力調査分析結果 | 分析結果を踏まえて検討した指導内容 | 指導体制の確立 |
|------|---|--|---|
| 年度当初 | 入学当初から基本的な計算問題の定着率および公式の利用についても単純な問題の正解率は高い。場合分けや証明問題といった応用問題に関しては正解率が減少し、筋道を立てたり、解答の方向性を決めることができない生徒が散見される。記述問題に対して論理的な解答を書くこと、きちんと説明することを1年間練習してきたが、まだ十分でない場合が多い。 | 教科書の問題に限らず問題集の応用・発展問題を扱う時間を確保する工夫が求められる。そのために以下のことを徹底する。 1. 年間指導計画の工夫 既習関連事項，学習目標を明確にし，授業で徹底する内容を担当者間で共有する。 2. 添削指導の工夫 定期考査や演習ノートの記述式の解答について，解答をしっかりと書く練習をさせ、担当者による確認・添削指導を行う。 | 1. 朝学習の実施 年間約30回の朝学習を実施する。内容は基礎的な問題を中心に出題し，知識の定着ができていないかを確認する。 2. 情報の共有 生徒の習熟度具合を確認する。提出物の提出状況が悪い，成績不振者などの情報を担当者・学年で情報共有し，数学科・学年で協力して改善に努める。 |

| | 生徒の変容 | 生徒の学力の定着状況 | 次年度に向けた指導体制の改善 |
|-----|-------|------------|----------------|
| 年度末 | | | |